

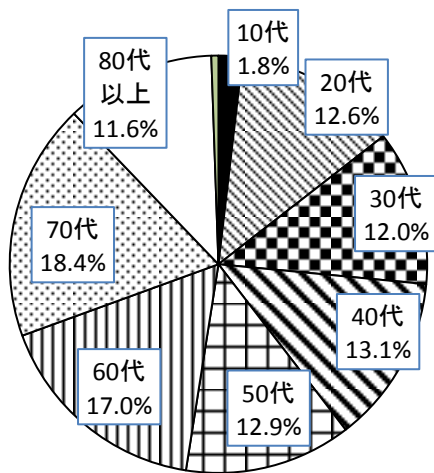
「社会参加に関する障害者等の意識調査」の結果について(抜粋)

- 1 調査目的**
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として障害者の一層の社会参加の促進を図るため、スポーツ大会や文化事業等に関する障害者等の意識を把握し、施策の充実の検討に資することを目的とする。
- 2 調査対象**
満18歳以上の障害者等（身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者）
- 3 有効回収標本数**
1,463標本／3,600標本（40.6%）
- 4 調査方法**
郵送調査
- 5 調査期間**
平成28年8月29日～平成28年9月30日

回答者の属性

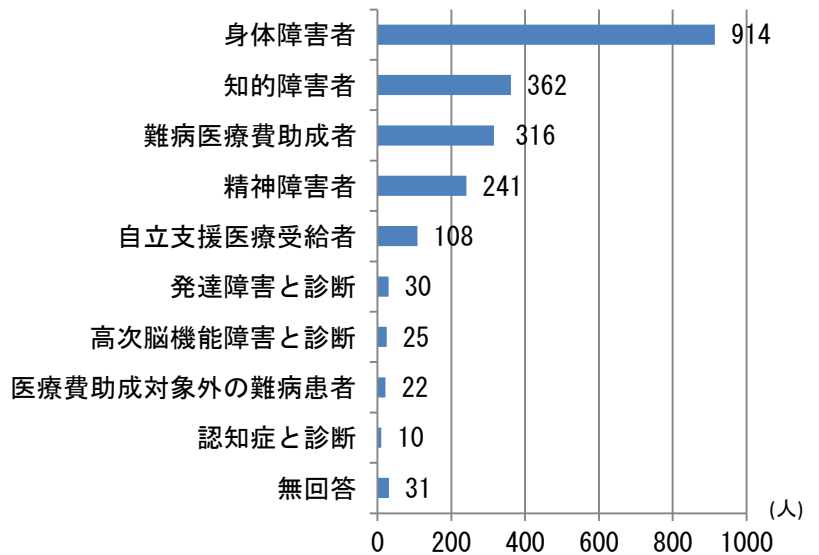
(障害者等総数1,463人)

【年代別】

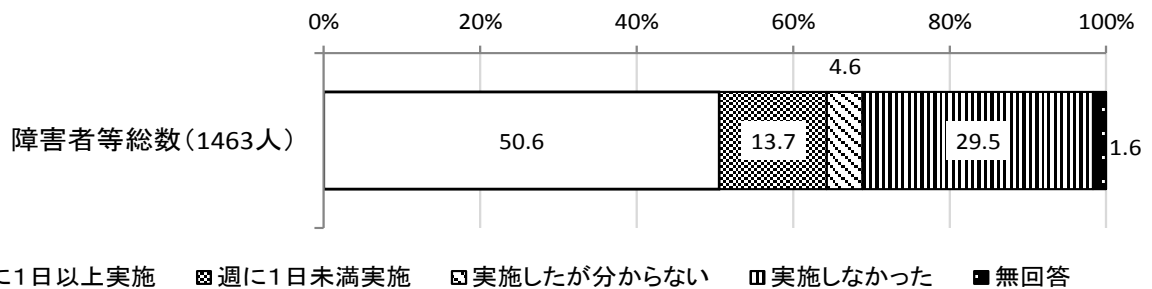


【障害別】

(単位:人) ※複数回答



スポーツ実施率



東京都内の障害者のスポーツ実施率は50.6%、全国の障害者のスポーツ実施率は19.2%（平成27年度インターネット調査・笹川スポーツ財団）と比べ、非常に高い。本調査の回答者の属性は60代以上が47.0%と全国調査の65歳以上が19.0%に比べて高いことが要因の一つと推測される。

「社会参加に関する障害者等の意識調査」の結果について(スポーツ関連)

この1年間に行ったスポーツ(上位10位)

※複数回答

総数	行った人	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		ウォーキング、散歩	体操	室内運動器具を用いる運動	水泳・遊泳	球技	アウトドアスポーツ	陸上競技	ダンス	サイクリング、モータースポーツ	ウィンタースポーツ
1463	1008	800	437	225	155	107	72	68	66	55	30
-	68.9%	54.7%	29.9%	15.4%	10.6%	7.3%	4.9%	4.6%	4.5%	3.8%	2.1%

「ウォーキング、散歩」が54.7%と最も高く、次いで「体操」が29.9%、「室内器具を用いる運動」が15.4%と続いている。1位、2位は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」と同様となっている。「今後行いたいスポーツ」上位10位も同様の種目が挙がっている。

スポーツや運動を行った理由(上位10位)

※複数回答

行った人	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	健康・体づくりのため	運動不足解消のため	楽しみや気晴らしのため	友人・仲間との交流のため	リハビリテーションや医療・治療のため	美容や肥満解消のため	家族のふれあいのため	精神の修養や訓練のため	自己の記録や能力を向上させるため	障害者スポーツ大会に参加するため
1008	676	543	455	205	162	120	94	48	33	27
-	67.1%	53.9%	45.1%	20.3%	16.1%	11.9%	9.3%	4.8%	3.3%	2.7%

「健康・体づくりのため」が67.1%と最も高く、次いで「運動不足解消のため」が53.9%、「楽しみや気晴らしのため」が45.1%と続いている。いずれも「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」と同様である。

スポーツや運動を行っていない理由

※複数回答

総数	行っていない人	1	2	3	4	5	6	7	8
		活動したいが身体的にできない	活動したいと思わない	活動したいが時間がない	活動したいが自分に合ったスポーツや運動の情報がない	活動したいと一緒にやる人がいない	活動したいが身近なところでスポーツや運動がやれる場所がない	その他	無回答
1463	431	219	90	43	41	37	34	44	11
-	-	50.8%	20.9%	10.0%	9.5%	8.6%	7.9%	10.2%	2.6%

スポーツを行わない理由として、「活動したいが身体的にできない」が50.8%と半数以上を占める。次いで「活動したいと思わない」で20.9%となっている。「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」では、「忙しくて時間がない」、「機会がなかった」が上位になっていることと比較して、障害当事者対象の調査の特徴的な部分だと思われる。

「社会参加に関する障害者等の意識調査」の結果について(スポーツ関連)

スポーツや運動を行う際に必要な支援(上位10位)

※3つまで選択

総数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	適切な指導者	一緒に行う仲間	会場までの送迎	障害にあわせたプログラムの充実	施設の利用料減免	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	障害者への施設開放の促進	障害や障害者、補助犬などに対する理解促進
1463	373	286	218	213	209	207	190	182	142	94
-	25.5%	19.5%	14.9%	14.6%	14.3%	14.1%	13.0%	12.4%	9.7%	6.4%

「適切な指導者」が25.5%と最も高く、次いで「一緒に行う仲間」が19.5%、「会場までの送迎」14.9%となっている。施設等ハードのバリアフリーより人的支援が上位に挙がっている。

障害別に見ると、上位に挙がっているものは同じ傾向であるが、身体障害者の視覚では、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」が、聴覚では「介助者や手話通訳などの支援」が他の障害に比べて高い傾向にある。

スポーツや運動を一緒にする人(上位10位)

※複数回答

行った人	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	一人	家族	福祉施設の職員・仲間	その他の友人・知人	スポーツ教室の指導者・仲間	障害がある人のサークル・障害者スポーツのサークル等の仲間	障害がある人やない人など様々な人がいるサークルの仲間	ボランティアの人たち	地域の公共スポーツ施設の職員・仲間	障害者専用スポーツ施設の職員・仲間
1008	557	319	146	130	80	72	64	32	24	16
-	55.3%	31.6%	14.5%	12.9%	7.9%	7.1%	6.3%	3.2%	2.4%	1.6%

「一人」が55.3%と最も高く、次いで「家族」が31.6%となっている。サークル等については「障害がある人のサークル」が7.1%、「障害がある人やない人のサークル」が6.3%と、大きな差はない。

この1年間でのスポーツ観戦の有無

※複数回答

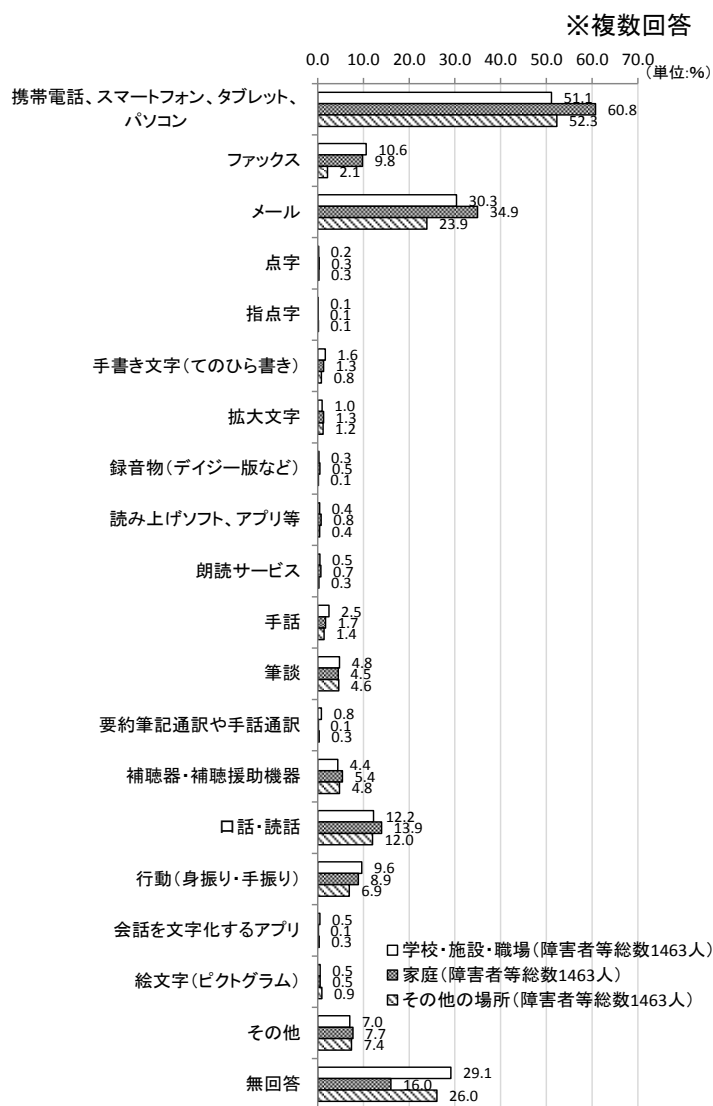
総数	1	2	3	4	-	-	-
	テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある	観戦したことはない	スタジアム・体育館などで実際に観戦したことがある	沿道で実際に観戦したことがある	その他	わからない	無回答
1463	1010	280	211	33	25	35	71
-	69.0%	19.1%	14.4%	2.3%	1.7%	2.4%	4.9%

「テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある」が69.0%と最も高いが、「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」の92.3%と比較して、スポーツをテレビ等で観戦した人の割合は低くなっている。また、スタジアムや沿道などで実際に観戦した人は16.7%と「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」の39.3%と比較してこちらも低くなっている。

「社会参加に関する障害者等の意識調査」の結果について(その他)

コミュニケーションや連絡の手段

東京2020大会で参加したいボランティア活動



コミュニケーションや連絡の手段は、学校・施設・職場、家庭、その他の場所のいずれにおいても、「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」の割合が高くなっている。

東京2020オリンピック・パラリンピックのいずれかに「ボランティアとして関わりたい」と回答した障害者等163人を対象とした調査では、参加したいボランティア活動として、「会場内での観客・大会関係者の誘導」が42.9%、「チケットチェック等の入場管理」が41.7%と高くなっている。

<調査の掲載先>

東京都福祉保健局トップページ > 障害者 > 障害者施策 > 「社会参加に関する障害者等の意識調査」について
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shougai/shougai_shisaku/syougai_isikicyousa/index.html